

山形

福島の子対象初の施設

# 原発避難者による 保育園開園

## 避難者のための



あいびい保育園での昼食。自らも避難している保育士らが、子どもたちに温かく接する

福島第1原発事故の影響で山形市に避難している母親らが運営する、避難者の幼い子向けの保育施設「あいびい保育園」が19日、同市内に開園した。福島の子を対象にした初めての保育施設。被災地での保育支援に取り組む同市のNPO法人「IVY」の後押しを受けて誕生した。

IVYが市中部に程近い場所に借りた園舎に19日朝、0歳から4歳まで8人の園児が登園してきた。近くの公園で外遊びをした後みんなでお昼ご飯を食べ、午後も伸びやかに時を過ごした。

7人のスタッフのうち4人が避難者だ。保育士の一人、浜本景子さんも避難生活を送りながら働く。「保育環境を整え、子どもの預け先がなくて困っていた福島のお母さんたちの就労などを支えたい」と語った。

IVYはスタッフの人件費を負担し、経理、労務管理などを担当。後方から支えていく。あいびい保育園担当のIVY震災支援コーディネーター今野けい子さんは「避難者の皆さんが『自分たちでつくり上げているんだ』と実感が持てる保育園になってほしい」と期待を込めた。